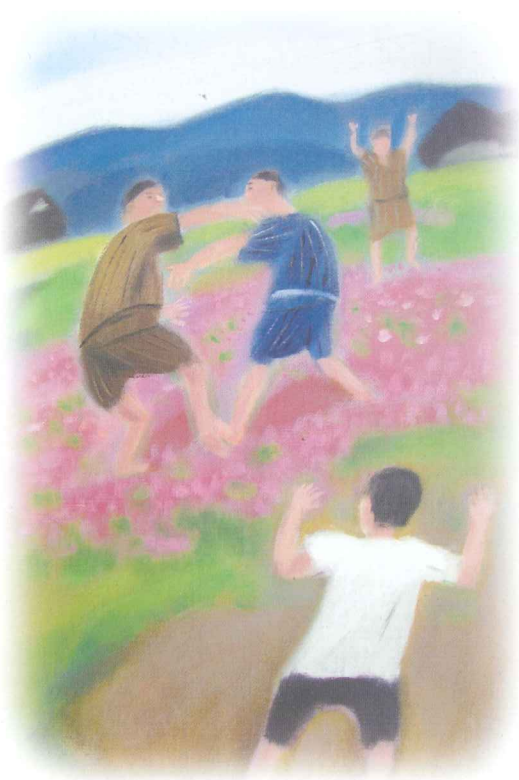


「私の小説や童話には、善太と三平が出て来ます。(中略)四十の年になってからは、善太と三平ばかりを書くようになってきました。その頃、この二人は、私の心中、作品の世界では、林の中のコンモリ茂った太い木の下におりました。木を廻っておいかけて合っているようでした。(中略)」

譲治が 描き続けたもの

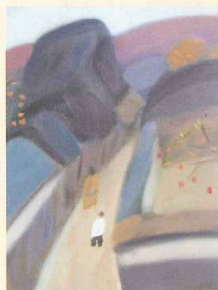


それはともかく、私の心の中に昔からあった、も一つの強いイメージは、吾が故郷、岡山県御野郡石井村島田であります。(中略)
その田園風景の中に一人の小さな子供がいて、セミを取ったり、フナを取ったり、カニあみをすいたりする様子が見えました。これは善太でも三平でもありません。実は私の幼い日の姿なのです。こうしたイメージは、さっきの善太と三平のイメージに、まさるとも劣らない尊いものなのであります。」 坪田譲治全集第10巻(新潮社刊)あとがきより

坪田譲治 (1890~1982)

明治23年3月3日(戸籍上は6月3日)、現在の岡山市北区島田本町に生まれる。実家はランプ芯などを作る工場・島田製織所を経営していた。明治41年早稲田大学予科に入学し、小川未明などに師事した。大学卒業後は、仕事をしながら作品を書き続け、鈴木三重吉・山本有三らの指導を受けて、昭和10年『お化けの世界』で脚光を浴びることとなる。以後『風の中の子供』『子供の四季』などを発表し、作家としての地位を築いた。昭和38年には童話雑誌『びわの実学校』を創刊し、新人の育成に力を注ぐ。その活躍から、日本芸術院賞、野間児童文芸賞、朝日賞など数多くの賞を受賞し、昭和39年には芸術院会員となった。

昭和57年7月7日永眠。



秋の島田村

協力/坪田理基男

監修/山根知子(ノートルダム清心女子大学教授)、加藤章三(善太と三平の会会長)

絵/堀越克哉 デザイン/上杉雅紀

制作:岡山市